新春座談会 1998

新しいまちづくりへの挑戦

いよいよ本四三架橋時代を迎えることし。恒例となっている新春対談を「子どもたちや老人にやさしいまちづくり」を提唱し推進している浜田市長と、就任後間もない中村議長にお願いし、抱負や夢などについて語っていただきました。（司会：田島広報委員長）

司会　あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。大型プロジェクトの順調な進展や、職員にやる気がみなぎっていて、浜田市がずいぶん変わってきていると感じています。早速ですが、浜田市政三年目のことしがどんな年になるのか、抱負などをお聞かせください。

市長　あけましておめでとうございます。就任以来、職員の意識の改革や市政の信頼回復に努めてきました。二年目の昨年は「改革と前進」をキャッチフレーズに全力で市政推進にあたり、その結果一定の成果があったとの実感を持っています。ことしは、さらに積極的に「新しいまちづくりへの挑戦」の年としたいと考えています。

高知新港の一部供用開始や神戸・鳴門、瀬戸・今治間ルートの開通、阿佐線工事の着工、空港再拡張周辺事業の推進策を明らかにする年と認識しています。本市の交通拠点性が一段と高まる年です。これにふさわしい「自然と文化の香る」「人気の高いまちづくり」に努力していきます。

目指すのは、

①充実した福祉や教育、保健・医療などのサービスが提供できるまち

②市民が選択できる就労の機会が身近にあるまち

③上下水道・ゴミ処理など、生活と居住環境の整備されたまち

となります。具体的には、高齢者住宅改造事業への支援を新たな事業として展開し、オフィスパークの整備や御石臨高速流通団地の整備と住宅マスタープランによる計画的な良質住宅の提供を図ります。

産業の活性化策として、農作物直販施設「道の駅」を整備したいと考えています。一般廃棄物の最終処分場は関係者の協力を得ながら、本年度中に基本設計を作りたいと考えています。図書館、文化会館建設へ向けても計画をさらに進めます。

少年・少女に夢を

浜田 純 市長

議長　あけましておめでとうございます。就任して三か月、身の引き締まる新年を迎えています。執行部との連携を密にし、市民の声を「声」として市政に反映し「市民の幸せ」のため懸命に努めていきます。どうぞよろしくお願いします。

浜田市政も三年目となり、具体的な成果もみられてまいりました。総合体育館の着工は、多くの市民の期待に応えるもので完成が待ち遠しく、楽しみです。

三架橋時代の交通拠点都市としての機能の充実は、市全体をつなげた形での整備が要求されると考えています。市民が市の中心に寄り集まって一緒になって元気に活動できる、そんな環境整備、つまりまちづくりができないかと考えています。また、全国に先がけた「市の目玉」として市民の誇りとして歓迎できる施設の建設ができないか、単なる通過点としての南国市にならないような施策を期待しています。「道の駅」の整備は、地場産品の販売がされますが「流通と交流の活性化の進展」によって、新たなビジネスチャンスも生まれてくるのではないかと考えています。

中村 照子 議長

司会　市制施行四十周年を迎えようとしていますが、市活性化の目玉となりうるものとしては何かお考えがありますか？

市長　ハード・ソフトの両面での対策が考えられます。本市には、豊かな自然と歴史があります。その中で全国発信できる素材として「貫之」があります。つらゆき時代まつりの過去二回の成功は高く評価できます。これをさらに発展させ、貫之にまつわる歴史的資源を掘り起こし、新たな事業展開も考えていきます。

市の個性としては、幸いたくさんの外国人留学生などが生活しています。この好条件を活用し「国際理解教育」に力を入れていきたいと考えています。空港の拡張により国際線の開設も課題となりますが、このこともまた世界へ目を向ける絶好の機会となり、少年・少女に「大きな夢」を与えられる市になることができると考えています。

面と、とらえたまちづくりを

議長　昨年導入したALT制度などすでに大きな成果を上げたものもありますが、本当に素晴らしいことだと思います。市民の中には、ボランティアとして市の活性化に大変大きな力を注いでいる人がたくさんいますが、地域での活動に改めて目を向けますと相当の成果をだしているものがあります。これらの地域での活動に行政がテコ入れして支援し育てていくということは、今後大変重要なことではないかと考えています。そして、これらの地域間での競争を促しさらに活性化を進めることなどは、全市的な活性化につながっていくと信じています。

田島 惇民 委員長

司会　県内の文化施設の中には、イベントとして全国からそれぞれの作品を募集するなどして活性化しているところがあります。本市の貫之は、文学の祖として全国に知られていますが、短歌を全国で募集するなどの事業も考えられるのではと思いますが？

市長　まったく同感です。短歌の募集は、県内全域で実施していますが、全国に向けて展開できればと考えています。十一年が市制施行四十周年となりますので、これを記念する事業として文学作品のようなものを全国募集したいと考えています。それに元親の歴史なども全国に紹介できる素材だと思います。市民のアイデアと参加できる事業の創設を模索しながら、もの・歴史・文化・こころを使った地域おこしを推進したいと考えています。

貫之で全国展開

司会　子どもやお年寄りに優しいまちづくりを目指す、指導力抜群の浜田市長さんと、情熱いっぱいの中村議長さんの名コンビで、「行ってみたい、住んでみたい」と思わせる人気度ナンバーワンの素晴らしいまちをぜひ作っていただきますよう、ご期待申し上げます。本日はどうもありがとうございました。